

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 一般国道257号 馬瀬・萩原バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 岐阜県
起終点 自：岐阜県下呂市萩原町古関 至：岐阜県下呂市馬瀬名丸	延長 9.2 km	

事業概要
一般国道257号は静岡県浜松市を起点とし、岐阜県大野郡荘川村に至る延長約213kmの幹線道路である。馬瀬・萩原バイパスは隘路、線形不良区間の解消を目的とした9.2kmの2車線道路である。

S48年度事業化	都市計画決定なし	S49年度用地着手	S50年度工事着手
----------	----------	-----------	-----------

全体事業費	12.1億円	事業進捗率	89%	供用済延長	8.7km
-------	--------	-------	-----	-------	-------

計画交通量	1,300台/日
-------	----------

費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	平成15年
	4.4	12 / 20 億円 事業費：12/20 億円 維持管理費：1 / 1 億円	89 / 89 億円 走行時間短縮便益：86/86 億円 走行費用減少便益：3 / 3 億円 交通事故減少便益：0 / 0 億円	
(残事業)	7.3			

事業の効果等
 ・円滑なモビリティの確保（現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線がある）
 ・個性ある地域の形成（鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する）
他4項目に該当

関係する地方公共団体等の意見
 一般国道257号の下呂荘川間は幹線道路であるにもかかわらず隘路、線形不良区間が点在しているため地域発展の障害となっている。下呂市をはじめとする関係1市2村の首長で構成される国道257号下呂荘川間改良促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
 平成16年3月に益田郡5町村が合併し下呂市が誕生するなど、地域の連携強化に必要不可欠な路線となっている。

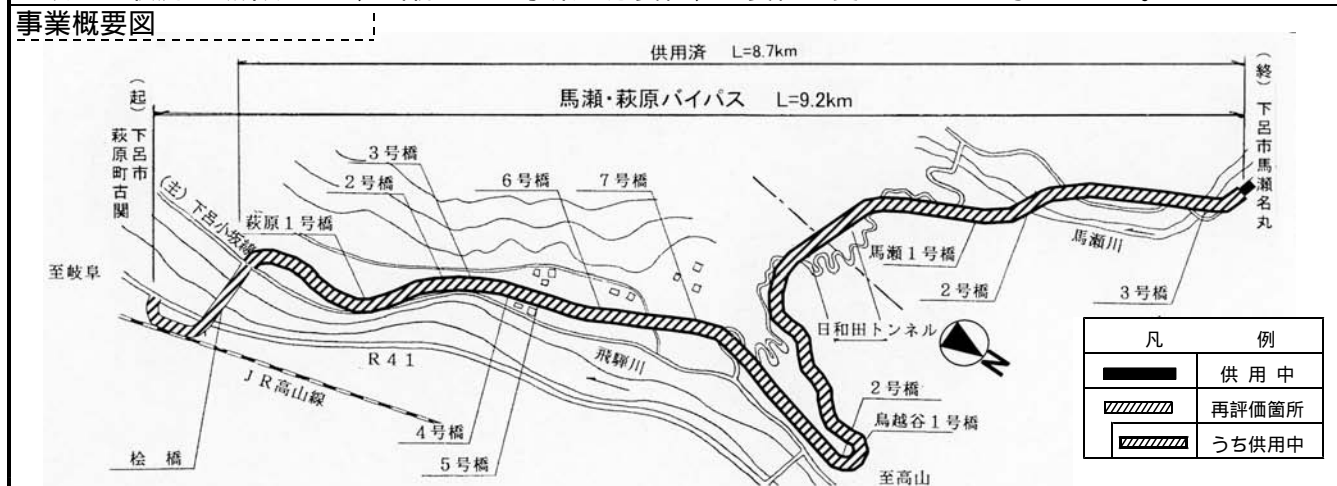
事業の進捗状況、残事業の内容等
 用地買収は完了し、飛騨川を横断する橋梁工事を促進している。現在までに8.7kmを部分供用している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
 一部において用地補償協議が難航し、工事着手までに長時間を要したが、橋梁工事を残すのみであり、早期完成を目指す。

施設の構造や工法の変更等
 橋梁塗装の変更によるライフサイクルコストの縮減を図っている。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由
 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。